



クリームソーダの 屋台カフェを引こう 町子ども会×まちのお年寄り

山形県立致道館高等学校

鎌田 南美

CONTENT 発表内容

あなたは街の人と話していますか。これに自信を持って頷ける人は大変少ないと思います。

これは人同士の繋がりが失われていくということを意味しています。私は、これは今後の山形にとってとても大きな問題なのではないかと考えました。

そこで、『町の子供と町のお年寄りで協力して、クリームソーダの移動式屋台で街を練り歩いてみる』というアイデアを提案します。どうしてクリームソーダか、これは3つ理由があります。1つ目は、時代を超えてみんなが大好きなことです。2つ目は、お年寄りにとっては喫茶店や洋食屋でのご褒美であったこと、3つ目は何よりポップでキュートなことです。クリームソーダは、明治初期に日本に誕生し、愛され続けています。特にお年寄りにとっては、喫茶店やカフェなどでよく親しまれていたかと思います。子供にとってもクリームソーダはとても親しみがあるのではないかと考えました。

町内会の子供と町の高齢者が交流の機会を持ち、まちと人の活気を取り戻そうと考えています。世代を超えた交流によって、心身の健康を促すとともにまちの活性化を図ります。



具体的な実施計画としては、2025年1月に、鶴岡市補助金制度などに応募します。

4月には、町内の工務店さんに手伝ってもらいみんなで一緒に屋台を作ります。7月には回覧板などで再度周知し、8月に実施という流れです。

見たことのない屋台、聞いたことのない繋がり、人同士が話せないことも、お年寄りの閉じこもりもどっかにいってしまう街へ。ぜひ私のアイディアにご賛同ください。確実に実行します。将来の山形の幸せを作るために、よろしくお願いします。

COMMENT 審査員コメント



東北芸術工科大学教授 片岡 英彦

クリームソーダっていうとちょっと懐かしさを感じるので、センスの良さを感じました。そういう思いをすごく大事にしてください。

企画者として先にアイデアや発想から入って、後から実現させるのが醍醐味だったりするので、最後に補助金を要請することまで考えられていたので素晴らしいです。



ANA SHONAI BLUE Ambassador 九鬼 江実

1人でここまで具体的に考えられてるのが本当にすごいなと思いました。実際の生活の中で、世代間の交流がすごく少ないという課題を見つけて、今後何ができるかというところまで考えられているのがすごいなと思いました。ここでまた世代を超えていろんな人を加えていくというところがすごく素敵だなと思って聞かせていただきました。